

初心者のための指揮入門(2)

The direction method guide for the beginner (2)

田 端 利 則

初心者のための指揮入門(2)

The direction method guide for the beginner (2)

田 端 利 則

I. はじめに

「春の小川を指揮してみよう」ⁱの試みにより、指揮に対する意識の低さや問題点が明らかになった。また、指揮は見よう見まねでできることから棒の動きは何かを伝え意味あることへと意識の変化も見られた。本研究では、斉藤秀雄メソードⁱⁱを参考に実際の曲に指揮の技法をあてはめることから、初心者のための指揮法について考えていくことにした。

II. 指揮の発達(指揮の歴史)

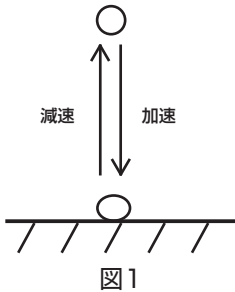
指揮は多人数の音楽行為を統一する目的から生まれた。その方法として手を打ったり、足を踏み鳴らしたりしたと言われる。古代ギリシャ悲劇のコロスの指揮者は足を踏んで拍子を取ったという。自由なリズムを持つグレゴリオ聖歌ではハンドサインにより速度や拍、音の上行下行などを示したカイロノミーⁱⁱⁱが使われ、7世紀のコラスマスターによりこの方法が定型化された。その後、指揮法は主に教会を中心に声楽のジャンルで発達していった。15～16世紀の多声音楽においては、カイノミーに代わって手の上下によって計られるタクトウスが音価の単位を示すよう

になった。また、バイオリンなどの器楽の発達による近代的なオーケストラの誕生は、新しいタイプの指揮者を必要とするようになり、作曲者がハーブシコードで通奏低音を奏しながら指揮をした。その後、オーケストラの規模が大きくなり多くの演奏者に統一を与える人が必要となり、19世紀には自分では音を出さず演奏者に統一(解釈)を与える指揮者が現れた。当初はベルリオーズやワーグナーなどの作曲者自ら棒を振る形が多かったが、ハンスフォンビューローによって職業としての専任指揮者が確立され、多くの名指揮者が誕生した。

III. 指揮の原理

指揮の動きは、ボールが床で弾む動きと同じである。ある高さにセットされたボールは、手を離すとそれ自体の重さで落下を始める。落下したボールは加速し、床に衝突する。ボールは反発する力でスピードを持って上昇する。上昇したボールは次第に上昇する力を失い、力がゼロになった点より落下を始める。この繰り返しでボールは弾みを繰り返すことになる。

これを指揮棒の動きで考えると、最初は基本位置で構え、初速を持って撥ね上げることから開始する。これを予備運動という。撥ね上げられた腕は直後に脱力、腕はそのまま上昇するが、しだいに力を失い、力がゼロになった地点から落下加速し、基本位置で腕橈骨筋の緊張により撥ね上げる。この運動の繰り返しが指揮の基本の叩きである。



基本動作

(点前運動、点、点后運動、加速と減速、)

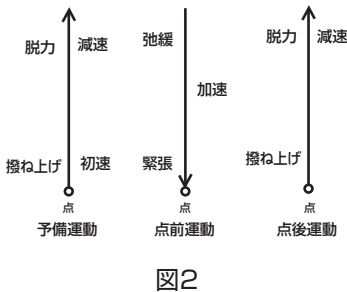
点で発音、点以後が音の出ている状態
図全体で音が鳴っているわけではない。

叩き……腕の筋肉の緊張と弛緩（脱力）

弛緩と緊張の繰り返し

下降……力を抜いて腕の重みで下降

上行……前腕部の腕橈骨の緊張・収縮によって反発し腕を撥ね上げる。



指揮の範囲



図3

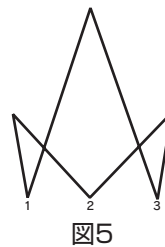
IV. 指揮の技法

基本図形（2拍子、3拍子、4拍子）^{iv}

2拍子



3拍子



4拍子



基本技術

ニュアンス表現のためのテクニック

間接運動 (叩き、平均運動、しゃくい)

<叩き>

各音が明瞭に発音される音楽に使用

2拍子 (V字)

- ① 基本位置を予備位置とする。
(撥ね上げ)
- ② 左肩へむかって上げていく (脱力)
- ③ 左肩から基本位置へ (加速)
- ④ 点(第1拍) (撥ね上げ)
- ⑤ 右肩へ上げる (脱力)
- ⑥ 右肩から基本位置へ (加速)
- ⑦ 点(第2拍) (撥ね上げ)
- ⑧ ②へ (繰り返し)

基本練習 (2拍子)

- (1) 手形の形で練習
上行の時は、親指側が目的地を目指す。
下降の時は小指側から落ちてくる
- (2) 点の前後で加速、減速を加える。
(運動の切り替えに注意)
- (3) 軽く握った手の構えで練習
(指揮棒を持った感じ)

3拍子

- ① 基本位置を予備位置とする。
- ② 真上・顔位置へ上げていく
- ③ 顔位置から左腹部へ 点(第1拍)
- ④ 左肩(胸)へ上げる
- ⑤ 基本位置へ下降 点(第2拍)
- ⑥ 右胸部位置へ上げる
- ⑦ 右腹部位置へ 点(第3拍)
- ⑧ ②へ(繰り返し)

4拍子

- ① 基本位置を予備位置とする。
- ② 真上・顔位置へ上げていく
- ③ 顔位置から基本位置へ 点(第1拍)
- ④ 基本位置から顔位置へ上げていく
- ⑤ 顔位置から左腹部へ 点(第2拍)
- ⑥ 左胸部位置上げる
- ⑦ 左胸部位置から基本位置へ点(第3拍)
- ⑧ 基本位置から右胸部へ
- ⑨ 右胸部から基本位置へ 点(第4拍)
- ⑩ ②へ(繰り返し)

<平均運動> (non espressivo)

ノン エスプレシーヴォ打法

レガートなニュアンスを表現する

点でビート(打点)を感じさせないこと

加速、減速をしない

2拍子



図7

3拍子

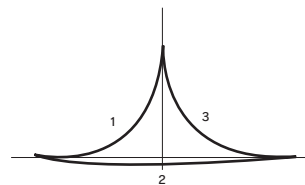


図8

4拍子

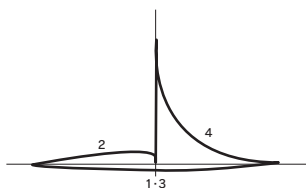


図9

基本練習（2拍子）

- ・胸部位置で水平に動かす。
- ・ゆっくりと同じテンポで動かす。
- ・折り返しの時、止まって流れが途切れないように壁にペンキを塗るようなイメージで、刷毛（ハケ）を撥ねない。壁から離さない。
- ・平均運動の点は明確に示されていないことになるが、テンポ設定や前後の流れによって自然に点を感じる。
- ・点を通過した時に音が出されるが、時間的な差で遅れて聞こえるが、音に合わせてはいけない。

<しゃくい> (espressivo)

エスプレシーヴォ打法

加速、減速により弧を描く運動、
点を明確にする。

叩きはV字形、しゃくいはU字形

一般的に裏拍の存在がはっきり感じられる曲

2拍子



図10

3拍子

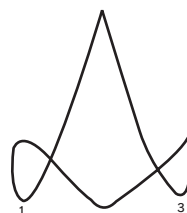


図11

4拍子

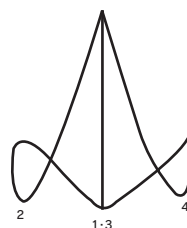


図12

直接運動

（瞬間運動、先入法、撥ね上げ、引っ掛け）

点後の運動、点からの初速で音を引き出す。

演奏者をあまり束縛しない技法

ある程度共通のテンポ感を持って自然な
流れで音楽が進んでいる状態

<瞬間運動>

インテンポで進んでいる拍と同じタイミングで前腕部または手首を動かす
前腕部を使う方法
手首の動きを使う方法

予備運動はイン・テンポで行う。テンポを予測させる。

予備運動は、ダイナミックスや発想のニュアンスも表す。

<撥ね上げ>

叩きから点前運動を除いた運動
動きの初めが点で、速いスピードで動き出し減速することにより点をはっきりとあらわす

<アウフタクト>

曲の始まる1拍前から予備運動を開始するが、細かい音符から始まっている場合はその端数の音符は無視して、次の拍から出るつもりで予備運動を開始する。

<引っ掛け>

点前運動は手首の小さな叩き、点後運動は撥ね上げ、この二つの動作を素早く行う。

<曲の終わり>

曲は、cresc. dim. rit. 等の種々の表情を持って終る。その方法として叩き止め、反動叩き止め、置き止めなどがある。曲を終るためには棒を停止させる必要があるが、どのような表情で停止させるかを考えることが大切である。

<先入法>

初速で音を引き出した後、軽い停止運動
軽い停止運動により裏拍を認識させリズム、テンポを明確にさせる。
テンポがゆっくりで、間があき過ぎて棒の動きが持たない。分割にすると演奏者をコントロールし過ぎてしまう。(1ト2ト)
演奏者との間に共通のテンポ感がある状態であること

「春の小川」の指揮において、最後の小節を4拍振り、次の小節の1拍目で終了する指揮が多く見られたが、最後の音符の後にある休符は小節の空白を埋めるためがあるので振る必要はない。最後の音符を振るのである。

<曲の開始：予備運動>

曲を開始するには、開始する拍の前で1拍余分に振る。これを予備運動という。
予備運動は前の拍の点を予備位置として撥ね上げを行う点後運動である。

この曲の最後の音を振るとは付点4分音符を置き止めし、4拍目で終了動作をおこなうことである。終了動作は棒を素早く下方または横に動かすか、左手を使えばよい。必ずしも小さな円を描く必要はない。

予備運動の留意点

予備運動は出来るだけ少ない拍で行う。
(多くの拍を使うと緊張感が薄れる)
予備運動を起すまで予備位置で絶対に動かさない。

<強弱の変化>

- 1、図形の大小で表す方法
fは図形を大きく、pは小さくする。
- 2、腕や身体の緊張で表す方法
テンポの速い曲などで図形の大小で強弱

の変化を表現できない時に有効

3、左手を使用して表す方法

手のひらを伏せると p、手のひらを上に向くと f、その手を上下することにより cresc. dim.を表す。

両手を左右対称に振るのは効果がない。

不必要な動きは控えるべきである

f から p への変化、p の前の拍の点後の運動を小さくし、次ぎのpにつなぐ、脱力が不十分な時は表現できない。

cresc.は、音量の増加だけではなく、声部の増加（厚さ）やテンションの高まり、リズムのアピール感やアタックの強まりなどを含むものとする。

1小節中に p から f への変化がある場合は、2拍は1拍より大きく3拍は2拍より大きく、4拍は f となる。

複数小節にわたっての変化はノンエスプレシヴォ打法かポーコエスプレシヴォ打法で振り進め、次第にエスプレシヴォ打法に切り換えて行く。

<フレージング>

旋律のフレージング（旋律の句読点）を明瞭に表現したい時には、中間予備運動を使う。次のフレーズの1拍前の点前運動を省略し点後で撥ね上げる。

<テンポ変化>（分割・アゴーギグ）

分割

rit. rall.などでテンポにブレーキをかける場合は、分割を使う。分割は3種類ある。

A分割

叩き止めと先入の組み合わせで、直接

運動のため演奏者をあまりコントロールせず、小さなrit.など自然にテンポを落としていく場合に使う。

B分割

同じ動きを繰り返すことにより点を示すので、強いコントロールを持つ。

AB分割

大きなテンポ変化の時、B分割の前にA分割を行う方法である。

アゴーギグ

テンポを変化させる拍の前で奏者に予備を与えなければならない。

rit.の前では少し大きな棒で、
accel.の前では少し小さめに、
accel.の後には大きく。

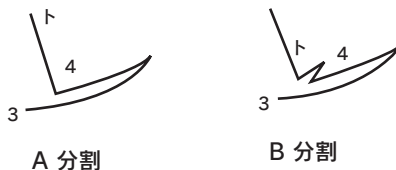


図13

IV. 指揮の概念と機能

指揮の概念（指揮って何？）

アンサンブルに解釈の統一を与え、演奏までに彫琢する作業。

集団における音頭取りの役目。

音頭の取り方（アプローチの仕方）により様々な表現が生まれる。

指揮の機能

指揮者……アンサンブルに解釈の統一を与え、演奏者の音楽を引き出し、表現したい音楽をそこに出させる。

指導者……演奏者の力を引き出し、かつ伸ばし育てアンサンブルをまとめる。ディレクター、トレーナーなど指導的な機能

指揮者の条件 (4つの要素)

音楽性、指揮技術、人間性、指導力の4つの要素がバランス良く備わっていることが大切

音楽性 (幅広い知識)

感性……音楽を感じる心

知性……知識、様式、構成力、テンポ感

指揮の技術 (テクニック)

脱力、フォーム、タイミング、メリハリ、叩き、平均運動、しゃくい、撥ね上げ、先入、引っ掛け、分割、予備運動、フレーズの開始・終わり、テンポ変化、フェルマータ、rit. accell.

人間性 (統率力、説得力)

信頼関係、カリスマ性

指導性 (トレーナー性)

テンポ、リズム、アタック、音の長さや形、ダイナミックス、音程、バランス音色、コントラスト、音の形を描える、ブレンド、

V. 指揮の実際

「春の小川」

(4拍子、平均運動、置き止め)

全体的に平均運動で振るが、4小節ごとのフレーズでcresc.とdim.を繰り返す。

各フレーズのcresc.の到達点と9小節目からのpを考える。

「メリーさんの羊」

(2拍子、叩き、叩き止め)

2拍子の叩きで振るが、全体的に軽さが必要である。1、5小節と7小節目裏の付点8分音符の持つアクセントに注目したい。

曲の最後は反動のない叩き止めとする。

大きな古時計

小節	曲	指揮の技法	指 揮
1	アフタクト mf cresc.	予備運動 平均運動	3拍目の点より撥ね上げ 4拍目より入る リズムの繰り返しによるcresc.
2			cresc.の頂点
3	dim.		2小節4拍目からリズムの繰り返しによるdim.
4		置き止め 中間予備運動	1拍目で置き止め、カウント（数取り） 4拍目の点で撥ね上げ（点前運動省略）
5	cresc.	平均運動	リズムの繰り返しによるcresc.
6			cresc.の頂点
7	dim.		6小節4拍目よりリズムの繰り返しdim
8		置き止め 中間予備運動	1拍目で置き止め、カウント（数取り） 4拍目の点で大きく撥ね上げespressivo打法へ
9	f	しゃくい	1・2拍目に大きなエネルギーを持ち、3・4拍で 小さくdim.へ、4拍目より場面転換、しゃくい （espressivo打法）
10	dim. cresc.	中間予備運動	徐々に図形を小さくdim.4拍目で大きく撥ね上げ
11	f		1・2拍目を大きく、3・4拍で小さく dimへ
12		叩き止め	1拍目の叩き止め、指揮の場を高く取りcresc.のエ ネルギーを維持、カウント（数取り）
13	p	引っ掛け 瞬間運動	4拍目を手首で軽く叩き、裏の8分音符を引き出す 1・3拍を手首だけの瞬間運動で直接点を示す
14		しゃくい	2・4拍省略 しゃくいでたっぷりと振り3拍目の点後より小さく 15小節目にむかってdim.
15	p dim.	瞬間運動	軽い反動止めで、1・3拍を瞬間運動、 2・4拍を省略
16		反動止め	1拍目で軽い反動止め、カウント、4拍で撥ね上げ
17	mf	しゃくい	しゃくいでたっぷりと振り4拍目の点後より小さく
18		瞬間運動 撥ね上げ	手首による瞬間運動で軽さを出す 4拍目の点後を大きく撥ね上げespressivo打法へ
19		しゃくい	espressivo打法
20		瞬間運動	手首による瞬間運動、 4拍目で手首による小さな撥ね上げ
21			1・3拍を軽く叩く、2・4拍を省略 4拍目の点後運動を大きく
22	mf cresc.	しゃくい	大きなespressivo打法、4拍目の点後を小さく
23	dim.		軽い反動止めで、1・3拍を瞬間運動、
24		叩き止め	2・4拍を省略 軽い叩きで付点2分音符の長さを引き出す。終了動作

大きな古時計

Grandfather's Clock

保富康午 訳詞
ワーク 作曲

mf

3拍点より予備運動 平均運動 リズムの繰り返しによるcresc. 徐々にdim. 置き止め 中間予備運動
(non espressivo打法) (poco espressivo打法)

non espressivo打法から (cresc.) poco espressivo打法へ 徐々にdim. 置き止め 中間予備運動

espressivo打法 3拍より図形を小さく 4拍目大きく撥ね上げ 大きなespressivo打法 叩き止め (カウント) *mf* 引っ掛け

瞬間運動 (2・4拍省略) 大きなespressivo打法 4拍目の点後を小さく 軽い反動止め (2・4拍省略) 軽い反動止め (カウント) 大きく撥ね上 (4拍目)

espressivo打法 4拍点後を小さく 手首による瞬間運動 大きく撥ね上げ (4拍目) espressivo打法 4拍点後を小さく 手首による瞬間運動 4拍目を小さく撥ね上げ

瞬間運動 (2・4拍省略) 大きなespressivo打法 4拍目の点後を小さく 軽い反動止め (2・4拍省略) 軽い反動止め 終了動作

帰れソレントへ

クルティス 作曲

Andantino *p* *stent.* *rall.* *a tempo*

予備運動 平均運動 *cresc.* *cresc. の到達点* *dim.*
 ハ短調 *non espressivo* 打法 から徐々に *poco espressivo* 打法へ 3拍目でA分割 テンポを戻す
 テンポにブレーキ

rall. *a tempo*

espressivo 打法 *dim.* 3拍目でA分割 テンポを戻す
 テンポにブレーキ

f stent.

espressivo 打法 *cresc.* *cresc. の到達点* *dim.* 3拍の点で停止の後 置き止め
 3拍裏を撥ね上げる 中間予備運動

f

2拍目点で停止の後 横に移動3拍目で引っ掛け 1拍目を浅く振り 2・3で次第に大きく *cresc.* アクセント叩き 大きな *espressivo* 打法 1拍目を浅く 2拍目で停止の後 3拍目で引っ掛け 反動叩き止め (2拍目)

帰れソレントへ

小節	曲	指揮の技法	指 揮
1~2	ハ短調	予備運動	3拍の点を基本位置に跳ね上げる
3~4	p・andantino	平均運動	2小節ごとのリズムパタンの繰り返してcresc.
5~6	stent.		stent.をcresc.の到達点として、減衰していく リズムパターン2小節は、1小節から2小節目1拍へ 向かって小さなcresc. 徐々にdim.
7	rall.	A分割	A分割でテンポにブレーキをかける。3拍の裏での 先入でブレーキをかける。
8	a tempo		1拍目の点前運動で加速し1拍目よりテンポを元に 戻すとともに場面転換(転調)
9~10	mf・con passione	しゃくい	2小節ごとのリズムパタンの繰り返しによるdim.
11~12		(espressivo)	
13~14			
15	rall.	A分割	少し大きめに振り、A分割でテンポにブレーキをかけ る。3拍の裏での先入でブレーキをかける。
16	a tempo		1拍目の点前運動で加速し1拍目よりテンポを元に 戻す
17~18			2小節ごとのリズムパタンの繰り返しによるcresc.
19~20			
21~22	f・stent.		cresc.の到達点としてf、大きく前腕に力を入れ 表情を出す。
23	ハ短調へ転調 フェルマータ		徐々にdim. 3拍の点で停止(フェルマータ)のあ と跳ね上げ、裏の8分音符を引き出す
24	dim.	置き止め・カウント 中間予備運動	置き止めで修まる。小さくカウント 3拍の点で大きく跳ね上げる(3拍目点前運動省略)
25	ハ長調に転調 フェルマータ	引っかけ	転調により大きな場面転換、12拍を大きく振る 2拍目の点で停止(フェルマータ)静かに横に移動し 3拍目で引っかけ(3拍の点を軽く叩きすぐ跳ね上げ ることにより裏の8分音符を引き出す)
26			フェルマータでの大きなエネルギーを維持し次へ繋ぐ ため、大きく
27~28			最初の8分休符を浅く振り、2・3拍で次第に大きく していく。
29	f・cresc. アクセント	アクセント叩き	30小節1拍目に向かって1拍ずつアクセント叩きで cresc.
30			cresc.の頂点として大きなエネルギーを持ち、曲の最 後の大きな盛り上がりとして大きく力強く振る
31	フェルマータ		1拍目の点を浅く振り、裏の8分音符を引き出す。 2拍目で大きなエネルギーを持ったまま停止

春の小川

岡野貞一 作曲

Moderato

予備運動 *non espressivo* 打法から 徐々に *poco espressivo* 打法へ 中間予備運動
4拍目を撥ね上げを大きく

poco espressivo 打法 *cresc.* *dim.* 中間予備運動
4拍目の撥ね上げを小さく

p *non espressivo* 打法から 少しずつ *poco espressivo* 打法へ 中間予備運動
4拍目を撥ね上げをmpへ

mp *poco espressivo* 打法 *cresc.* *dim.* 置き止め

メリーさんの羊

アメリカ民謡

予備運動 叩き 軽い叩き 少し大きく 軽い叩き 1拍目を軽く 叩き止め・終了動作
1拍目を深くアクセント 少し *cresc.* 1拍目を深くアクセント 2拍目を深くアクセント

小節	曲	指揮の技法	指 揮
32	スフォルツァンド	反動叩き止め	大きなエネルギーを持って最後の2分音符に入るが伴奏は2拍目のsfで大きなエネルギーを持ったまま反動叩き止めで強引に終了。

春の小川

小節	曲	指揮の技法	指 揮
1	mp	予備運動	開始拍の前拍の点から撥ね上げ
2		平均運動	4拍目の点を基本位置として撥ね上げをする 4小節をフレーズとして組み立てる。4分音符4拍の繰り返しで徐々にcresc. 平均運動 (espressivo打法) であるがにcresc.に従って、poco espressivo打法へと変化させていく。
3		中間予備運動	cresc.の頂点、1・2拍を大きく徐々に小さくする
4			フレーズ終了、中間予備運動、4拍の点前運動を省略し4拍の点から撥ね上げる。4拍目は休符であるので4拍目を叩くと音符を感じさせてしまう。
5~8	mf	中間予備運動	基本的には1~4小節の繰り返しであるが、mfとなりpoco espressivo打法となる。
9~12	p		pとなり場面転換が行われている。徐々にcresc.
13~16	mp		11小節を頂点にdim. 中間予備運動 基本的には5~8小節の繰り返しである。16小節目は曲の終りとなる。棒は3拍の点で停止、穏やかな表情を持つ置き止めとする。終了動作は左手で行うか、右手で横に線を引く動作で行う。
		置き止め	

メリーさんの羊

小節	曲	指揮の技法	指 揮
1	少しdim 少しcresc	予備運動	1拍目の付点8分音符を叩きアクセントを強調する
2		叩き	1拍の点後は小さく2拍目以後を軽くする。
3		軽い叩き	
4		軽い叩き	
5		大きめに	
6		1拍目の付点8分音符を叩きアクセントを付ける	
7		軽い叩き	
8		叩き止め	1拍目を軽く叩き、2拍目の付点8分音符を深く叩く反動のない叩き止めで終わる。

「大きな古時計」

(4拍子、アウフタクト、平均運動、
しゃくい、瞬間運動、置き止め)

4拍目から開始する曲であるので、3拍の点を基本位置に予備運動を開始する。前半は穏やかな平均運動でcresc.とdim.を繰り返す。

9小節目より音の起伏が激しくなり、表情の変化に伴って、しゃくい (espressivo) の打法に変化させる。12小節目の付点2分音符は11小節目から続く、cresc.のエネルギーを持続させるため反動叩き止めとする。

13小節目はpで裏拍到4分休符があるので1・3拍を軽い叩き止めとし、裏拍を省略する。18小節目は小さく軽い表情を表現するため手首だけの動きの瞬間運動とする。

曲の最後の付点2分音符は長さを維持するために軽い反動止めとする。

「帰れソレントへ」

(3拍子、平均運動、しゃくい、叩き、
分割、フェルマータ、反動止め)

最初はハ短調で穏やかな平均運動で始める。

2小節目ごとのにcresc.し、stent.に到達、徐々にdim.する。7小節目のrall.は3拍目でA分割しテンポを落とす。ハ長調に転調する8小節目でテンポを戻す。

9小節目からは情熱的に (con passione) と表情が変わり、しゃくい (espressivo 打法) に変える。15小節目のrall.はA分割を使う。21小節目で再びハ短調に転調しcresc.の頂点となる。23小節目のフェ

ルマータは3拍目の点で棒を停止した後、裏の拍を撥ね上げ動きを始める。25小節目のフェルマータは2拍目で停止した後、少し横に移動させ3拍目を引っ掛け裏の8分音符を引き出す。

27小節目は最初に8分休符があるので1拍目を浅く振り次第に大きくしていく。29小節目はアクセント叩きで力強く最後のクライマックスに導いて行く。31小節目のフェルマータは25小節と同様に2拍目で停止、3拍目で引っ掛けを行い裏の8分音符を引き出す。最後小節は2拍目で反動叩き止めを行い、大きなエネルギーを持ったまま終了する。

VI. おわりに

音楽の指導者は、指揮者とトレーナーの2つの役割を持つ。しかし、その大半は合奏や個人の指導などトレーナーの役割に費やされる。指揮の作業はその最後に個人の問題とされ、ほとんど考えられないのが現状であろう。しかも、指揮は形や音としても残らず一過性のものとして通り過ぎてしまう。しかし、演奏の邪魔になる棒や無表情で何も意味を持たない棒が存在していい訳はない。

指導や指揮をするためには、曲に対するアプローチやアナリーゼがなされた上で行われなければならない。十分なアプローチがなされず、音楽を探りながら指導や指揮をすることは時間の浪費であり、演奏者に無用の負担をかけることにもなる。バトンテクニックはそれを表現する方法であり、バトンテクニックを考えることは音楽を考えることである。今回は、曲にバトンテクニックを当てはめることから、曲へのアプローチを試みた。

4曲の指揮例は、テンポの変化や強弱の変化、表情の変化に合わせてバトンテクニックをあてはめたものである。

一過性の営みとして行われている指揮を考える参考となれば幸いである。今後も分かりやすい旋律の指揮を通して、曲へのアプローチを考えていきたい。

- i 全国保育養成協議会第41回研究大会
研究発表論文集
- ii 齊藤秀雄 「指揮法教程」
- iii ハンドサインによって正確な記譜法を持たない楽譜の旋律線、装飾法などを指示する方法
- iv 基本図形として次のようなものも使用される

[1] 齊藤秀雄 「指揮法教程」

音楽之友

[2] 齊田好男 「はじめての指揮法」

音楽之友

[3] 小松一彦 「実践的指揮法」

音楽之友

[4] M. ルードルフ 「指揮法」

音楽之友

[5] 「音楽大辞典」

平凡社

[6] 全国保育養成協議会第41回研究大会
研究発表論文集

